

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2871400442		
法人名	株式会社ゆとり		
事業所名	グループホーム ゆとりの家		
所在地	兵庫県篠山市住吉台 56番地3 (電話) 079-594-4341		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8アメニティビル104		
訪問調査日	2007年5月15日	評価確定日	2007年7月2日

【情報提供票より平成19年5月 日 事業所記入】

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 6人, 非常勤 4人	常勤換算3.68人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建 造り		
	2階建ての1階 ~ 2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	1,200 円
敷金	200000 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

## (4) 利用者の概要(5月1日 現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83.39歳	最低 75歳	最高 91歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	にしき記念病院・兵庫県丹波老人性認知症疾患センター・杉本歯科
---------	--------------------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・開所当初より、地域との密接な関わりあいを持ちながら独自の運営を志してきた事業所であり、「地域密着型」を先取りした理念を実践している。</li> <li>・運営推進委員会が有効に機能している。</li> <li>・共用スペースが広くゆったりしている。</li> </ul>
---

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回評価の「新しい提言が出来、自主的に取り組んでいける環境が必要」との改善課題に取り組み、職員の提案に自発性が見られるようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>・開所当初より、管理者の行き届いた配慮や、徹底した利用者主体の介護をすることで本人の自立を促している。地域密着型に移行しても、従来の運営に自信を持ち、より積極的に理念を実践していく意欲が感じられる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>・運営推進会議で事業所が抱えている問題を議題とし、地域の「ふれあい喫茶」に車椅子でも、参加できるようになったなど取り組みの成果が上がっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>・家族の意見・苦情はすくないが、要望などを出しやすくするために家族会を作っていくことを期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連事項;第三者3)</p> <p>・地域との交流は、自然な近所づきあいの形で行われている。利用者は地域の行事に参加したり、ボランティアと買い物に出かけたり、地域の「ふれあい喫茶」に参加するなど日常的によく行われている。</p>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「命を尊び自立支援を行い、利用者・家族の意思を尊重し、笑顔と声掛けを忘れず安心の介護を行うこと」を理念とし、実践面でも住み慣れた地域生活の継続と、日々の生活に社会参加を取り入れている。		・開所当初から地域との関わり合いを大切にし、独自の運営を志した事業所であり、「地域密着」を理念に取り込むことになっている。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者と全職員は、理念を具体的によく理解することに努め、毎朝のカンファレンスでその実践の報告と確認を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・管理者を始め職員数名は、同じ地域の住民で地域との交流は日常的に行われている。自治会に加入しており、回覧と共に「ゆとり通信」も地域に配布されている。		・地域との交流は自然な形で行われている。利用者は地域の行事に参加したり、ボランティアの人と買い物に出かけたり、地域にある「ふれあい喫茶」にも参加している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員が評価の意義と理解に努め、評価を通じて質の確保と向上につなげる努力をしている。		・評価の狙いを活用し、職員からの提言を積極的に取り上げる等、改善に取り組み成果をあげている。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・推進委員会では、前回の議題に対する結果報告を行い、委員からの意見、協力事項、要望等を受け、次回につなげ、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。</p>		<p>・運営推進委員の努力により、利用者が地域の「ふれあい喫茶」に車椅子で出入りできるようになるなど、地域ぐるみの協力が得られている。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・行政との関わりは、事業所として開設応募した当初から続いており、事業所から積極的に働きかけを行って、サービスの質の向上がきよう継続して取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・会報誌、写真、利用者の状況報告、レシートを貼った金銭出納報告書等を、毎月一回定期的に家族に送付している。体調の変化があるときには個別に連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族の意見、苦情の窓口は、契約書・重要事項説明書等に記載し、説明しているがあまり要望が聞かれない。</p>		<p>・家族会が無いので、今後は家族会を積極的に作る努力に期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の移動時には、引継ぎ時間を十分にとって、利用者へのダメージを和らげるよう柔軟な職員配置に配慮している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・運営者は管理者を兼務しており、職員の研修意欲を高め、各自の経験やケアの習熟度に応じた研修をし、知識を身につけるよう工夫している。</p>		<p>・パートを含めた全職員の育成を具体化することに努めている。ミーティング等で職員の希望や報告を受け、サービスのレベルアップができる研修を受けられるよう心がけている。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同業者間の情報交換は大切にしている。県や市の研修に参加し、交流を深めサービスの質の向上への取り組みを行っている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・利用者に地域で、居宅介護支援や、デイサービスを利用してもらいながら、顔なじみになり家族との話し合いも出来て、親しみを持って事業所を利用できるよう工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者と職員は、何でも話し合える友人であり生活者でもある。お互いに学びあい、笑いや悲しみを共にし、共感を分かち支えあう関係を築いている。</p>		<p>・利用者は包丁の使い方の先生で、「でかんしょ踊り」の師匠でもある。昔の思い出話は、若い職員には歴史の学びの場にもなっている。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者の日々変化する状態を把握し、本人本位の希望、意向、行動を読み取るよう努力している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・計画作成者は、家族、本人の情報を基にプラン作成している。スタッフは24時間4区分のローテーション勤務で、日中、夜間の状態を把握し、ケアプランに反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・ケアプラン計画を協力医に相談し、カンファレンスによって利用者の体調の変化を見守っている。申し送りノートで全職員が情報を共有し、状態変化に対応している。</p>		<p>・介護計画の見直しは、月一回程度が望ましくスタッフは予防的に対応するよう努めて欲しい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者に対して、医療連携体制加算を活かして早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、地域に対して状況に応じて、居宅支援事業、通所サービス、宿泊サービス（自主事業）等の多様な支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・ホームの協力医の他、かかりつけ医でも受診できる支援をしている。かかりつけ医の受診は家族が行えない時は職員が代行している。協力医の来診は月2回である。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・終末期の対応については、状況変化に応じて医師の説明を受けながら、本人・家族の要望に沿ってホームが対応しえる最大のケアを行うことを契約前より説明している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・生活歴からそれぞれの誇りを理解し、ケアに活かしている。本人の了解を得て誇りを傷つけないように配慮している。職員とは個人情報の保護責務契約を取りかわし、カンファレンスでも振り返り確認している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・基本的な一日の流れはあるが、散歩に行きたい人には、職員が付き添い、食事に時間がかかる利用者も急かさず、一人ひとりの気持ちやペースに配慮して柔軟に支援するように努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理から片づけまで、職員は利用者に行き届くことをやってもらいながら一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルで楽しく会話しながら食事をしている。		・近所の人、利用者の家族、友人、ボランティア等が野菜その他の食材を持ってきてくれるとそれに合わせてその日の献立を変えている。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・夜間の入浴希望者はいない。週3回午後入浴の時間にしている。入浴を拒否する人には、時間を置き気分を変えて声掛けしたり、利用者同士で誘い合っってもらおうようにしている。同姓の職員が安全な入浴介助を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・野菜作り、植物の手入れ、草取り、食事の準備等利用者の経験や知恵を発揮できる場所を作っている。レクリエーションに気が乗らない人には別のことをしてもらい固定していない。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・近くの河川敷や公園に散歩に行ったり、墓参りや地域の運動会、盆踊り、祭り等に皆で参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・以前日中は鍵を掛けていなかったが、近くに不審者が出たり、利用者の飛び出しが心配で、現在は午後の決まった時間以外は施錠している。希望があれば庭や外出等で、利用者閉塞感を与えないよう努めている。		・施錠による閉塞感を与えない工夫がされているが、鍵をかける時間を短くするなど、職員の見守りの方法などの工夫が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・夜間職員が手薄な時間に、少ない人数でどのようにすればいいか訓練している。年2回地域の消防団と連携訓練を行っている。米と缶詰め貯水槽の水を災害に備え備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事の残食量を記録し大まかな栄養摂取量を把握している。食事が減ったときは、好みのものを出したり、食事の形態を変えたり工夫している。水分量は記録していないが、必要な人には、協力医の指示で個別に対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースは3箇所あり、広い窓からは庭の草花や野菜が見え、鳥の鳴き声、隣接する保育所の子供たちの声が聞こえ、居心地よく過ごせる。体調の悪い利用者は食事の準備ができるまで横になって待つゆっくりくつる場所がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇、タンス、椅子、アルバム、賞状等馴染みのものが持ち込まれている。本人の物が少ないときはタンス等ホームで用意している。折り紙の好きな人の部屋は居室に折り紙を飾ったり、季節感のある飾りを職員が準備して利用者の心地よさに配慮している。		

 は、重点項目。